

令和元年度 中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（盛岡市中心市街地活性化基本計画）のフォローアップに関する報告

令和2年11月  
盛岡市

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

- (1) 平成30年3月に策定した、国の認定を受けない市独自の「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に基づき、「商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成」、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」、「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」という3つの方針のもと、各種事業を実施した。国の認定を受けた「第2期中心市街地活性化基本計画」から継続する事業も含めた全67事業のうち、今年度実施している事業が58事業、完了した事業が4事業、未着手の事業が5事業であった。
- (2) ソフト事業は既に完了、または実施中である。令和元年度は、「いわて盛岡シティマラソン」を初めて開催したほか、チャグチャグ馬コ、盛岡さんさ踊り、盛岡秋祭り山車といった、長年受け継がれてきた伝統と資源を生かした観光PRを行い、全国に向けて中心市街地をはじめとする盛岡の魅力を発信することができた。また、中心市街地の空き店舗へ出店する事業者へ補助を行う事業については、問い合わせと相談が年間で32件あり、そのうち8件は補助を受け実際に出店していることから、事業者が魅力を感じる街が形成されてきているものと推測される。同事業については、これまで15年にわたり事業を進めた結果、中心市街地の空き店舗数が、ピーク時の約半数まで減少しており、一定の効果が得られたものと推測される。さらに、商店街の賑わいづくりに資する支援や、交通や子育てをサポートする事業等の実施により、住みたい街、訪れやすい街の形成につながったと考えられる。
- (3) 施設整備事業では、5事業が未実施となっているほか、進行中の一部事業で計画期間が延長されるなど、ハード整備に遅れが生じているため、関係機関と連携し、着実に実施していく必要がある。特に、重点事業に指定されている盛岡バスセンターの整備事業については、「盛岡バスセンター整備基本計画」が策定され、バスターミナル及びにぎわい施設の設計・施工事業者が選定されたことから、今後は、有識者や関係機関、地域住民と意見を交換しながら、計画通りに事業を進められるよう進捗を管理していく必要がある。さらに、国が募集する「ウォークブル推進都市」に令和元年8月に応募し、「まちなかウォークブル区域」の指定を目指すこととしたほか、令和元年度末に策定された「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成を推進していく必要がある。
- (4) 令和元年の年間観光客入込数は4,429,359人（前年比111,717人増）と増加したが、一方で、中心市街地の通行量や居住人口は減少若しくは横ばいであるため、ソフト面からの支援や施設整備などの事業を継続して実施するとともに、住みやすく賑わいのある盛岡の魅力を市内外に発信することで来街者を呼び込み、年間を通して交流人口

を増やしていくことが重要だと考えられる。特に、大型商業施設であるななっくが令和元年6月に閉店したことに加え、岩手医科大学附属病院が令和元年9月に移転したことから、中心市街地における人の回遊性の低下などの影響が出ているところであるが、令和元年11月に市内の民間事業者がななっくの土地及び建物を取得し、隣接する肴町商店街や盛岡バスセンターと連携した再開発整備を計画しており、新たな賑わいの創出につながることを期待されている。一方、令和2年2月頃から新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大の影響を受け、本市においてもイベントや会合、外出の自粛が広がり多くの飲食店、サービスが集まる中心市街地は特に大きな経済的な影響を受けている。今後も感染症の終息が見通せない中で、感染症対策を図りながら事業を展開していく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（各年度基準日：1月1日）

（中心市街地 地区域）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 （計画前年度）
人口	13,278	13,324	13,552	13,461	13,367
人口増減数	246	46	228	△91	△94
自然増減数	△10	△16	△21	△37	△33
社会増減数	100	80	73	△48	△28
転入者数	918	856	917	814	836

（中心市街地 地区域）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人口	13,193	13,145			
人口増減数	△174	△48			
自然増減数	△85	△64			
社会増減数	△87	△15			
転入者数	805	808			

※人口については当該年度内の1月1日を基準日とし、増減については基準日までの1年間(1/1～12/31)

(例)令和元年度 人口：令和2年1月1日時点

増減数：平成31年1月1日～令和元年12月31日の増減

## 2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

「中心市街地活性化 つながるまちづくりプラン」2年目となる令和元年度は、プラン掲載事業について、新たに追加した事業を含めた全67事業のうち58事業が実施中、4事業が完了となっているが、事業の実施に当たっては、事業担当課や実施事業者だけでなく、盛岡市の関係部署と連携して幅広く周知を行い、事業効果をより高めるよう引き続き工夫されたい。

プランに掲げている3つの目標指標のうち、「中心市街地の通行量」については、策定時の基準値よりも通行量が減少していることから、中心市街地の実態を的確に把握しながら、効果的な事業の進め方について逐次検討を行いながら実施されたい。

「中心市街地の居住人口」についても、定時の基準値を下回る結果となっており、居住環境の整備を継続して進めるとともに、居住者の利便性向上に資する事業の実施によるエリアの魅力向上を図ることで、居住人口の増加に繋げられたい。

「盛岡市街の宿泊観光客入込数」については、改元に伴う10連休や、いわて盛岡シティマラソンなど全国規模のイベントが開催されたこともあり、目標値を大きく上回る結果となっており、宿泊施設の整備による観光客の受け入れ機能の強化や、盛岡の魅力を生かして市内外に発信するソフト事業の取組において成果が表れてきているものと評価する。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、大規模イベントの中止や規模の縮小、観光客の減少など大きな影響が出ており、目標指標のうち、特に観光客入込数についての見通しが難しい状況にあるが、落ち込んだ経済活動を活発化させるための施策も多く展開されている。令和3年度には、東北ディスティネーションキャンペーンも予定されていることから、感染症対策を図りながら、中心市街地におけるにぎわいの創出を図ることができるよう、関係各所が連携して取組を進められたい。

今後の中心市街地活性化に向けて、大型店舗が閉店した肴町界隈をはじめとする中心市街地のまちづくりや、新盛岡バスセンターに係る関連事業等が、新たにプランに盛り込まれる予定となっている。これらの事業を活かした中心市街地における回遊性の向上等に向け引き続き取り組むとともに、必要に応じて柔軟に計画の更新を行いながら、事業を着実に実施することで、持続可能な中心市街地の形成が推進されることを期待する。

## Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成	中心市街地の 通行量 (歩行者・自転車)	16,353人 (H30.3)	17,500人 (R4)	<b>13,090人</b> (R2.3)	<b>C</b>	②	②
暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成	中心市街地の 居住人口	13,367人 (H29.9)	13,500人 (R4)	<b>13,150人</b> (R1.9)	<b>C</b>	③	③
盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成	盛岡市街の 観光客入込数 (日帰り・宿泊者数)	4,250,000人 (策定時基準値) 4,199,959人 (H29実績)	4,467,000人 (R4)	<b>4,429,359人</b> (R1.12)	<b>B</b>	①	- (※)

#### <基準値からの改善状況>

A：目標達成，B：基準値達成，C：基準値未達成

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり，目標達成可能であると見込まれる。
  - ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが，このままでは目標達成可能とは見込まれず，今後対策を講じる必要がある。
  - ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの，目標達成可能と見込まれ，引き続き最大限努力していく。
  - ④取組の進捗に支障が生じているなど，このままでは目標達成可能とは見込まれず，今後対策を講じる必要がある。
- (※) 盛岡市街の観光客入込数は，令和元年12月時点では順調に伸びてきていたが，新型コロナウイルス感染症の影響により，現時点での目標達成見通しを予測することが困難であることから，今回の見通しを「-」とした。

### 2. 目標達成見通しの理由

(1) 「中心市街地の通行量」については，前年実績を4人下回る結果となった。前年と同様に，夜間営業を主とする飲食店等が増加傾向にあることが，日中の通行量が伸びない要因のひとつと考えられる。

なお，調査時点では，新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言前であったことから，今後，感染症対策と経済活動の両立を図りながら，プラン掲載事業を推進し，商店街の空き店舗活用や商店街の魅力強化を支援することで，目標達成に向けて取り組んでいく必要がある。

(2) 「中心市街地の居住人口」については，前年実績を3人下回る結果となった。目標達成に向けて，共同住宅の建設など，市街の居住利便性の向上につながる事業を着実に実施するほか，子育て応援プラザ運営事業など住みやすいまちとしての魅力向上につながる取組を強化していく。

(3) 「盛岡市街の観光客入込数」については，前年実績を111,717人上回った。改元に伴い，ゴールデンウィークが10連休となったことや，「いわて盛岡シティマラソン」などの全国規模のイベントの開催に加え，中央通二丁目北地区ホテル事業の完了により，

中心市街地での観光客の受け入れ機能が強化されていること、W i - f i 環境の整備や「おもてなし」する力を向上させる研修会の実施により、観光客入込数の増加の要因となったと推測される。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大規模なイベントの開催中止や、規模の縮小、観光客の減少などの大きな影響を受けており、現時点での目標達成の見通しを予測することは難しいが、今後の状況に注視しながら取組を進めていく。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

新型コロナウイルス感染症の影響により、従来どおりの取組が困難になると見込まれる事業があるため。

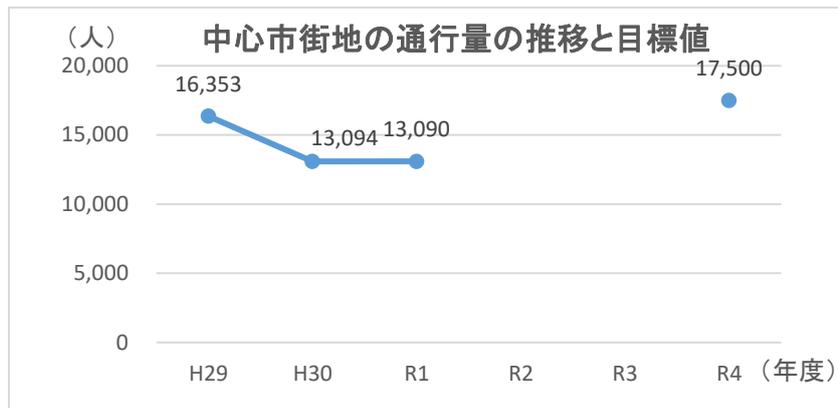
### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 基本方針1 商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成

事業：a 商店街の力を活かす b 商店街の賑わいをつくる

指標：「中心市街地歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方はプランP27 参照

#### ●調査結果の推移



年	(人)
H29	16,353 (基準年値)
H30	13,094
R1	13,090
R2	
R3	
R4	17,500 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月下旬に実施）

※調査月：令和2年3月22日（日曜日）、23日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、8地点（数値は加重平均）

#### ●目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

##### ① 商店街等魅力強化支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	複数の商店街等がエリアごとにテーマを設定し魅力強化のための研修会を開催する際の講師招聘経費を補助する。
事業効果及び進捗状況	サンサン青山さん通り商店会・盛岡市上田商店街協同組合・盛岡駅前商業研究会に対して講師派遣を実施し、商店街を構成する個店の経営力強化に寄与した。

## ② 中小企業人材育成支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	中小企業の役員・社員が、中小企業大学校において開催する研修を受講する場合の受講料の一部補助を行う。
事業効果及び進捗状況	令和元年度は1社2名に対してRIPSの受講料の補助を実施し、中心市街地の事業者の経営力強化に寄与した。

## ③ 商店街イベント事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	商店街等が主催するイベント等に対し、盛岡市商店街連合会を通じ盛岡市がその経費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	盛岡市商店街連合会を通じて8団体に補助を実施し、商店街の賑わい創出や地域住民との結びつき強化の一助となった。

## ④ 商店街活性化支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	①商店街をステージに、市民が主体となって企画・実施する事業②地域住民や小学校と連携し、商店街を花や木で装飾する事業③誰もが利用しやすい環境整備のため、商店街にベンチ等を設置する事業に対し、盛岡市商店街連合会を通じ盛岡市がその経費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	盛岡市商店街連合会を通じて、ストリートステージ7団体、フラワーコミュニケーション事業2団体、ベンチ設置事業1団体に補助を行い、市民の活動発表の場を確保したほか、商店街の賑わいを創出した。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

プランに掲載する事業については、計画どおり順調に実施されているが、中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加には至っていないことから、今後も関係団体と協力しながら、事業の効果をあげる取組方について検討し、感染症対策を図りながら回遊性の向上に努める必要がある。

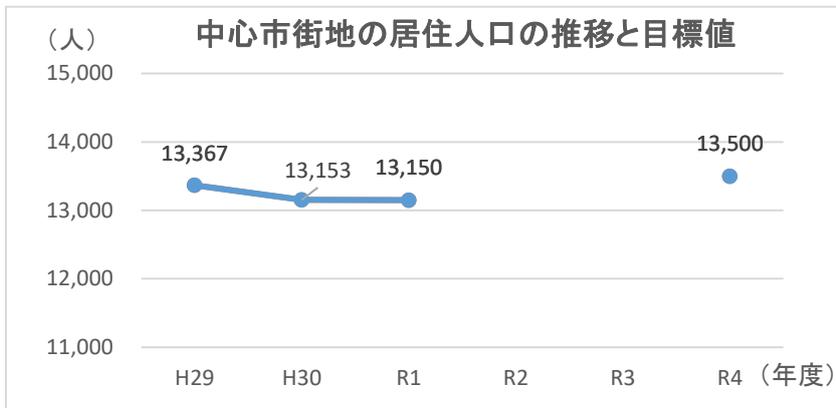
今後の対策としては、商店街等のイベントの開催方法を工夫し、効果的な集客につなげるとともに、日常生活でも中心市街地への来街者を増加させるため、近隣地域から中心市街地までのアクセスの向上や、商店街等に所在する事業者の経営力の向上など、魅力ある中心市街地を形成する事業を総合的に実施することで、年間を通じた交流人口を増加させ、目標達成を目指していく。また、国が募集する「ウォーカブル推進都市」に令和元年8月に応募し、「まちなかウォーカブル区域」の指定を目指すこととしており、歩行者中心のまちづくりを推進し、中心市街地への回遊性を高めることで、賑わいの創出につなげていく。

(2) 基本方針2 暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成

事業：c 住みたくなる環境をつくる d 訪れやすい環境をつくる

指標：「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方はプランP28を参照

●調査結果の推移



年	(人)
H29	13,367 (基準年値)
H30	13,153
R1	13,150
R2	
R3	
R4	13,500 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和元年9月（各年9月末日時点）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：中心市街地の居住人口

●目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 中央通三丁目地区優良建築物等整備事業

事業完了時期	令和2年度【実施中】
事業概要	①敷地の共同化②店舗及び共同住宅の建設を実施する。
事業効果及び進捗状況	平成30年9月解体工事が完了し、建築工事に着手している。 今後分譲が行われまちなか居住が推進されることから、周辺商業施設での購買機会及び回遊人口の増加につながる。

② 子育て応援プラザ運営事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	室内遊び場やイベントスペース、託児機能付きオフィス、カフェなどを備えた、子育て応援施設（マ・モール）を公民連携により運営する。
事業効果及び進捗状況	室内遊び場や託児機能を備えた公共エリアと、子どもと離れずに働くことができるワーキングスペースを運営する民間事業エリアを設置、運営し、育児中の世帯も安心してまちなかを回遊できる環境を整えた。

### ③ 盛岡バスセンター整備事業

事業完了時期	令和3年度（予定）【実施中】
事業概要	平成28年に閉鎖した旧盛岡バスセンター所在地において、民間活力の導入を図りながら新たなバスセンターを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成30年度はバスターミナル整備及び道路拡幅に係る概略について検討を進めた。 令和元年度は盛岡バスセンター整備基本計画を策定し、バスターミナルおよびにぎわい施設の設計・施工事業者の選定を行った。 バスターミナル機能と賑わい機能を備えた施設を整備し、中心市街地へ訪れやすい環境を作るとともに河南地区を中心とした賑わいの創出につなげる。

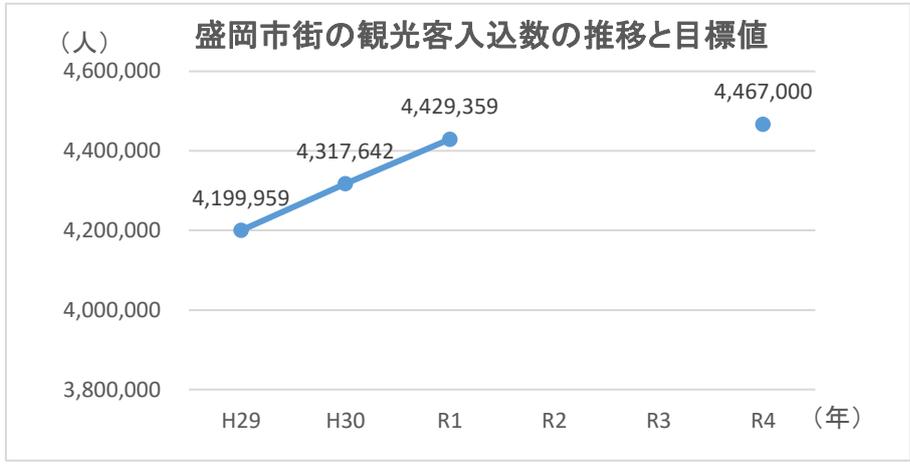
#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

中央通三丁目地区の共同住宅の建設や、中心市街地への交通アクセスを改善する都市計画道路の整備が順次進捗しており、住みやすいまちとしての魅力や市街の利便性の向上が期待されることから、目標達成につながると見込まれる。

今後の対策としては、居住施設等の整備事業を着実に実施し、居住環境の整備を進めるとともに、居住者の利便性向上に資する事業の実施によるエリアの魅力向上を継続して行うことにより、中心市街地居住人口の増加を図る。

- (3) 基本方針3 盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成  
 事業：e 城下町の魅力を発信する f 伝統と四季を発信する  
 指標：「盛岡市街の観光客入込数（日帰り・宿泊者数）」  
 ※目標設定の考え方はプランP29参照

●調査結果の推移



年	(人)
H28	4,208,272
H29	4,250,000 (基準年値) 4,199,959 (実績)
H30	4,317,642
R1	4,429,359
R2	
R3	
R4	4,467,000 (目標値)

- ※調査方法：①日帰り観光客入込数  
 近郊3インターチェンジ、バス事業者、JRの報告（任意）を盛岡市が集計  
 ②宿泊者数  
 市街地宿泊施設からの宿泊者数報告（任意）を盛岡市が集計

※調査月：令和2年3月（平成31年1月～令和元年12月分の数値）

※調査主体：盛岡市

- ※調査対象：①日帰り観光客入込数  
 盛岡IC、盛岡南IC、滝沢IC、岩手県交通、岩手県北バス、JR東日本  
 ②宿泊者数  
 盛岡市街の宿泊施設

●目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 盛岡おもてなし度UP事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	市、観光団体及び事業者等が連携して、観光誘客PRや、職域研修会などの開催を支援する。 遠来からの観光客に市を挙げて「おもてなしの心」で接することにより、観光客のリピーターや口コミなどによる観光客誘致を促進し、中心市街地の魅力の発信につなげる。
事業効果及び進捗状況	構成団体が観光客に対する「おもてなし」の向上を推進するための職域別研修会の開催費用支援、盛岡駅前の歓迎装飾制作事業、外国人観光案内所のWi-Fi機器強化更新事業、観光誘客PR等の事業を実施した。

② 盛岡さんさ踊りなど伝統的な四季の祭りの開催

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	盛岡の伝統的な祭りの開催などを通じて、盛岡の特徴的な四季の魅力を発信し、盛岡と盛岡を訪れる人とをつなぐ。
事業効果及び進捗状況	春は「盛岡さくらまつり」、「フラワーバスケット事業」、「大盛岡神輿祭」、「チャグチャグ馬コ」、夏は「盛岡さんさ踊り」、「盛岡七夕まつり」、「ゆかたのまち盛岡」推進事業、秋は「盛岡秋まつり山車」、冬には「もりおか雪あかり」の9事業を実施し、盛岡市街の観光客入込数の増加に寄与したものと見込まれる。

③ 「ゆかたのまちもりおか」推進事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	毎年夏の約1ヶ月間、協賛店をゆかた姿で利用すると様々なサービスが受けられるキャンペーンを実施する。 ゆかたで街を回遊することを楽しめる街にすることで、華やかさや賑わいを創出するとともに、商店街を中心とした協賛店のサービスを利用するきっかけをつくり、商店街の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	「ゆかたのまち盛岡キャンペーン」を令和元年7月13日～8月31日の50日間開催したほか、ゆかたコンテストやゆかた着付教室を開催し、華やかさと賑わいの創出に資した。 また、「ミスゆかたのまち盛岡」による中心市街地のイベントでのPR活動や、メディアやSNSによる情報発信を行い、盛岡の魅力発信に寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、令和元年度の実績も市街の観光客入込数は前年実績4,317,642人より111,717人増加している。インバウンドの観光客宿泊者数が増加傾向にあったことや、令和元年度はいわて盛岡シティマラソンや盛岡国際俳句大会、第36回伝統的工芸品月間国民会議全国大会岩手大会など全国規模の催しが多数開催されたことが要因と推測される。その一方で、新型コロナウイルス感染症により、大規模なイベントの開催中止や、規模の縮小、観光客の減少などの影響が出始めていることに加え、感染症対策と経済活動の両立を図りながら事業を展開していく必要がある、現時点で目標達成の見通しを予測することは難しい。今後は、インターネット環境の整備やキャッシュレス決済等への対応など利便性の向上に加え、感染症対策を講じたうえで、来街者をおもてなしする方法について商店街や事業者の関心をさらに高め、観光客などが安心して訪れやすい、便利で魅力的なまちづくりを推進するとともに、市街地を回遊させる取組を総合的に実施することで、中心市街地全体に経済効果を波及させていく。